

# はまなす

第114号 令和4年6月30日

<特集>

転入・新入会員自己紹介(2・3・4面)  
佐渡ときわ賞受賞者の実践 (4面)

## 顔

自らを高め続ける会員一人一人を  
支える佐渡支部

キーワード「つなぐ」の継続と強化

金井小学校

山田裕之



一、新しい時代の教育に向け、自らを高め続ける会員一人一人を支えるときわ会

大橋伸夫新会長は「すべての教職員が学び続け、自らの教職員としての資質・能力を高め続ける努力をしなければならぬ。その時に、ときわ会が大切にしてきた研修と親睦がどのような意味をもつのかを考えていかなければならない。」とし、新たに「一の見出しを基本方針として掲げた。そして、今年度の重点を次のように定めた。

〈重点1〉

会員一人一人が必要とする資質や指導力を向上させる研修の推進

〈重点2〉

会員一人一人や各組織への支援を進めることによる人材育成と組織の活性化

〈重点3〉

活動の公開や情報発信、ネットワークの拡充を通じた、開かれた活動の推進

〈重点4〉  
百五十周年記念事業の計画立案と準備の推進

研修会等でのオンラインやハイブリットは、もはや特別なことではなくなっている。対面での研修機会は減ったが、会員の研修意欲は高い。それに応えるべく、新しいスタイルの研修『ときわセレクタ研修』が今年度から立ち上がる。反面、親睦や交流がなくなったことによる影響も大きい。まだ懇親会が復活できる状況にはないが、自由に語り合える場や情報交換の機会を設定する計画が進行している。

二、自らを高め続ける会員一人一人を支える佐渡支部

今年度の支部運営の方向(概要)は次のとおりである。

○ウィズコロナウイルス時代が当面続くことを前提に、大きな変化を前向きに捉え新しい時代の教育を創造する。

○「ルネス」の各部が中核となることを誓う。

り、授業力の向上をはじめとする実践的指導力を高める研修を充実させる。

○会員の連帯感と結束力を高めるため、オンライン等新しい形の集いを積極的に取り入れ、会員間のネットワーク構築に努める。

○ときわ創設百五十周年に向け、具体的な取組を推進する。

四月十七日の支部総会でも話したとおり、今年度もキーワード「つなぐ」を継続する。今できる連携や協働・情報共有の場を、さらに工夫し強化しよう努める。

五月八日に行われた理事会・三委員会合同会議において、「自分を主語にして、何と何をつなぐ努力をするのか、一人一人が考えてほしい。」という発言があった。是非、全会員が自分ごととしてこの課題に向き合っていたいただきたい。

昨年度に引き続き、支部長という重責をいただいたことを重く受け止めている。自らを高め続けるため、支部会員と共に学び続けることを誓う。

(昭60)

## はまなす抄

教師のやりがい

佐渡特別支援学校

水谷武



私が教師を目指したきっかけは、村上で過ごした小学校時代の担任A先生の影響が大きい。国語の授業は厳しかったが、情熱溢れる先生の人柄に惹かれた。

それから三十年以上経ったある日、A先生と佐渡で再会した。私が勤務する学校で国語の特別授業をするための来島であった。教師の立場での参観だったが、A先生の口調や仕事などに触れるにつれ、小学生当時の授業が感動とともに蘇ってきた。

さらに数年後、今度は私がA先生の地元、十日町に赴任した。そこでは、二人で昔話に花を咲かせるとともに、当時の学級経営や授業づくりについて、思いを馳せ熱く語るA先生の願いを初めて知ることができた。その後の話にも興奮しながら聞き入った。

長い教員人生には、子どもや同僚との出会いをとおして、様々なドラマを経験することがある。若手教員や教師を目指す学生たちにはこれからも伝えていきたい。だから教師は楽しい。

(昭62)